

◆親鸞とその門弟

宮崎 圓 遺著

本書は著者が小叙に於て述べられる如く、ここ數年に互り各種の雑誌に載せられた論稿から本論題に關連するものを選んで編集されたもので、御自身認められている様に叙述に重複する箇所もあるが、とに角、親鸞聖人が反律令佛敎の立場をとられ、その立場に於ける聖人傳の素描を序論とし、次いで聖人の生涯の各編を著者の専門的見地からして論述され、前後一貫して纏められてある事は、ただに眞宗史の専攻者のみならず眞宗の教義・歴史に關心のある方々にとつて必讀すべき著書である。而も、本文に關係ある史料を適宜寫眞にして本文中に掲載された親切さは讀む者にとつて極めて便宜である。更に附録として載せられた「蓮如上人の生涯」は曾つて「蓮如上人の生涯」と思想「の中のもので重複の感もあるが、蓮如上人が「再興の上人」として親鸞聖人の意を帶して敎團を復興された意味に於いて、親鸞聖人と門弟を述べる論稿の附録として、しかも表装を立派にして出

版されたことは喜ばしく、廣く江湖にお奨めしたい。(三一年九月刊・B 6 二六五頁・三〇〇圓・永田文皇堂)(細川)

◆慈悲

中村 元著

(サーラ叢書1、三一年五月平樂寺書店刊、B 6 版、一九八頁、三五〇圓)

◆原始佛敎

水野 弘 元著

(サーラ叢書4、三一年六月平樂寺書店刊、B 6 版、三〇四頁、三五〇圓)

◆佛敎の傳説

雲井 昭 善著

(現代人の佛敎・佛典叢書3、三一年七月春秋社刊、B 6 版、二五六頁、三〇〇圓)

何か現代人にとつて高遠なもの、縁遠いものに思われている佛敎を、大衆に手渡そうと意圖する一連の叢書の刊行が、期せずして東西相呼應するように企てられたことは、喜ばしい。

中村教授の「慈悲」は、昭和二十四年、哲學新書の一冊として雄山閣から刊行された同名の書を全面的に改訂されたもの

である。二、三節ほどは新たに書加えられ、同一章節にも多く増補の箇所が見られ、全體の構想も幾分變更が見られる。佛敎における慈悲の意義、慈悲の語義、慈悲の觀念の歴史的發展、慈悲の實踐の理論的根據、實踐行爲としてあらわれた慈悲の性格などについて、インド・シナ・日本に互る多種多様な佛典からの詳細な引用と明快な分析考察による解りやすい解説が與えられている。

水野教授の「原始佛敎」は要を得た原始佛敎教義の概説書で、佛敎史上原始佛敎のもつ意味・他のインド思想と原始佛敎との關係・原始佛敎の主要教義とその特色などについて手際よく叙述してある。

雲井教授の「佛敎の傳説」は、佛敎の經典に傳えられて來たいろいろの譬喩・因縁物語・寓喩・傳説を集めて一書に構成したものである。その取材の範圍は、ジャータカ・譬喩・法句經及びその註釋など、いわゆる本緣部に收められるもの(ただしここでは佛傳は除かれている)を中心として、阿含・律及び法華・涅槃・淨土などの諸大乘經典に及んでいる。ただシナ・日本の佛敎傳説には説き及んでいない。(櫻部)